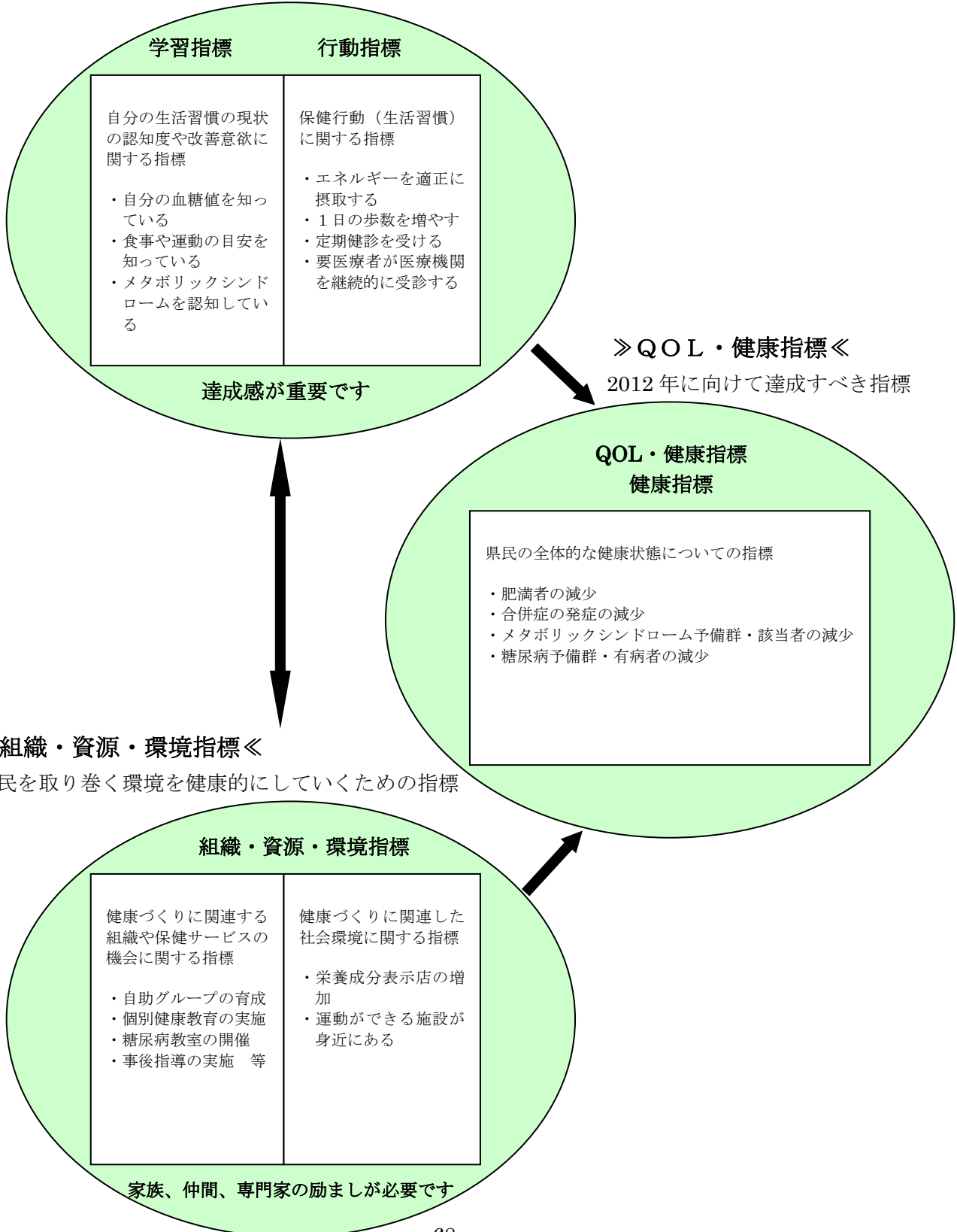


## 7 糖尿病

### 指標の考え方

#### 》行動・学習指標《

県民自らが健康的な生活習慣を確立するために必要な指標



健康指標

糖尿病は、進行すると腎症、網膜症、壊疽、神経症などの障害発生の大きな原因となる合併症を生じるとともに脳血管疾患や虚血性心疾患、歯周病などを進展するなど、QOLに大きく影響を及ぼします。

いったん、糖尿病にかかれば、ほとんどの場合、一生糖尿病とつきあうこととなりますが、食事療法や運動療法を行い、必要に応じて、薬物療法やインシュリン療法を加えて、血糖のコントロールを行えば、健康な人と同じように日常生活を送ることができます。し

かし、さらに重要なことは、日頃から糖尿病を予防するための適正な生活習慣を確立することです。

従って、健康指標として「肥満者（BMI ≥ 25）の減少」「糖尿病の合併症の発症の減少」に加えて、「健診での糖尿病患者（境界型を含む）の増加の抑制」を「糖尿病予備群の数の減少」「糖尿病有病者の減少」に改め、メタボリックシンドロームの概念の導入に伴い、「メタボリックシンドローム予備群・該当者の減少」等、これに関連した新たな指標を設定しました。

種類	指標	①ベースライン値 (H12年度)	②最近の値	目標	根拠となる調査
健康指標	肥満者の減少 BMI ≥ 25		人口に対する割合	人口に対する割合	
	成人男性	24.8%	34.8% (157,000人)	15%以下 **(67,000人以下)	①A
	成人女性	19.3%	21.0% (111,000人)	15%以下 **(79,000人以下)	②H
	(追加項目)				
	糖尿病合併症の発症の減少				
	糖尿病性腎症による新規透析患者数及び導入率(人口10万対)		157人 (13.0)	100人以下 (8.5以下)	②G-6 (平成18年)
	糖尿病性網膜症による新規視覚障害者数	データなし		減少	①データなし
	(追加項目)				
	メタボリックシンドローム予備群の数の減少			10%削減(H20比)	
	ウエスト周囲径(男性85cm以上、女性90cm以上)かつ次の3項目のうち1つ該当する者(40~74歳) ①中性脂肪150mg/dl以上、HDLコレステロールが40mg/dl未満、若しくはコレステロールを下げる薬を服用 ②収縮期血圧130mmHg以上かつまたは拡張期血圧85mmHg以上、若しくは血圧を下げる薬服用 ③空腹時血糖110mg/dl以上またはHbA1c5.5%以上、若しくはインスリン注射または血糖を下げる薬服用		男性: 77,000人 (29.4%) 女性: 23,000人 (7.8%) 計: 100,000人 (18.0%)	【参考値】 10%削減(H18比) **男性: 69,000人 (26.9%) **女性: 20,000人 (7.0%) **計 : 89,000人 (16.4%)	②H

(注) \*\*印は、平成 24 年の将来推計人口をもとに算出しています。

種類	指標	①ベースライン値 (H12年度)	②最近の値	目標	根拠となる調査
健康指標	(追加項目) メタボリックシンドローム該当者の減少			10%削減(H20比)	
	ウエスト周囲径(男性85cm以上、女性90cm以上)かつ次の3項目のうち2つ以上該当する者(40~74歳)				
	①中性脂肪150mg/dl以上、HDLコレステロールが40mg/dl未満、若しくはコレステロールを下げる薬を服用				
	②収縮期血圧130mmHg以上かつ/または拡張期血圧85mmHg以上、若しくは血圧を下げる薬服用				
	③空腹時血糖110mgHg/dl以上またはHbA1c5.5%以上、若しくはインスリン注射または血糖を下げる薬服用				
			男性: 44,000人 (16.8%) 女性: 17,000人 (5.8%) 計 : 61,000人 (11.0%)	【参考値】 10%削減(H18比) **男性: 38,000人 (14.8%) **女性: 15,000人 (5.3%) **計 : 53,000人 (9.8%)	②H
	(追加項目) 糖尿病予備群の数の減少			10%削減	
	空腹時血糖110mg/dl以上126mg/dl未満又はHbA1c5.5以上6.1未満の者。但し、インスリン使用、血糖を下げる薬の服用者を除く(40~74歳)				
			男性: 38,000人 (14.5%) 女性: 42,000人 (14.3%) 計 : 80,000人 (14.4%)	**男性: 33,000人 (12.9%) **女性: 38,000人 (13.3%) **計 : 71,000人 (13.1%)	②H
(追加項目) 糖尿病有病者の減少			10%削減		
空腹時血糖126mg/dl以上又はHba1c6.1%以上であるか、インスリン注射又は血糖を下げる薬を服用(40~74歳)					
		男性: 20,000人 (7.6%) 女性: 9,000人 (3.1%) 計 : 29,000人 (5.2%)	**男性: 17,000人 (6.6%) **女性: 8,000人 (2.8%) **計 : 25,000人 (4.6%)	②H	

(注) \*\*印は、平成 24 年の将来推計人口をもとに算出しています。

ベースライン値、最近の値の根拠となる資料は次のとおりです。  
A : 平成 12 年度 県民生活習慣実態調査  
G-6 : その他  
H : 平成 18 年度 県民健康調査

### 行動指標

糖尿病の発症予防や合併症の予防には、栄養、運動をはじめ、ストレス、アルコール、たばこ、歯周病予防などの生活習慣を望ましいものに自ら改善していく必要があります。

また糖尿病は、初期には自覚症状が出にくいため、定期的な医療機関受診が必要であるにもかかわらず、放置されることが少なくありません。

そこで、個人が健康的な保健行動を確立する（生活習慣を改善する）指標として、「エネルギーを適正に摂取する」「1日の歩数を増やす」「定期健診を受ける」「要医療者が医療機関を受診する」の4つの行動指標を定めました。「定期健診を受ける」の指標については、平成20年度より実施されることとなった医療保険者に義務づけられる特定健診、特定保

健指導に対応するため、「特定健診の受診者数の向上」「特定保健指導の受診者数の向上」に指標を改めました。

### 学習指標

糖尿病を防ぐには、自分のライフスタイルを見直して、積極的に糖尿病の予防に努める必要があります。また、検査の結果、糖尿病あるいは境界型といわれた場合には、糖尿病をよく理解し、糖尿病との正しい付き合い方を学び取ることが大切です。

そこで、個人の行動に影響を及ぼす知識に関する指標として、「自分の血糖値を知っている」「自分の食事や運動の目安を知っている」の2つの学習指標を定めました。

また、「メタボリックシンドロームを認知している人の割合の増加」を追加設定しました。

種類	指標	①ベースライン値 (H12年度)	②最近の値	目標	根拠となる調査
行動指標	エネルギーを適正に摂取する				①B ②B-2
	エネルギー所要量110%以上の者	52.5%	56.5%	35%以下	
	1日の歩数を増やす (追加項目)	8,099歩	7,622歩	10,000歩以上	①A ②A-2
	特定健診の受診者数の向上 (追加項目)		—	70%	②データなし
	特定保健指導の受診者数の向上		—	45%	②データなし
	健診の後、要医療(要精密)の者が医療機関を受診する	84.9%	74.5%	100%	①A ②H
学習指標	自分の血糖値を知っている				①A
	40歳以上	42.0%		60%以上	
	糖尿病(境界型を含む)を指摘された者のうち自分の食事や運動の目安を知っている (追加項目)	73.0%		100%	①A
	メタボリックシンドロームを認知している人の割合の増加		42.8%	80%以上	②H

組織・資源・環境指標

糖尿病の予防や合併症の進行を防ぐためには、家族をはじめ、同じ疾患を持つ仲間、医療専門職、地域社会などの周囲の支援が必要となります。また、健康教育や健康相談などの保健サービスの機会を増やしたり、自助グ

ープなどの組織を育成するとともに、県民が健康によい行動をとりやすいような環境づくりを行うことも大切です。そこで、組織・資源・環境指標として、次のとおり7項目を定めました。

種類	指標	①ベースライン値 (H12年度)	②最近の値	目標	根拠となる調査
組織資源 環境指標	糖尿病に関する自助グループを有する市町村数				①D(平成11年) ②D-2(平成17年度)
	日本糖尿病協会友の会または糖尿病教室OB会のいずれかがある市町村数	27市町村 (58市町村)	10市町村 (18市町村)	18市町村 (18市町村)	
	運動ができる施設が身近にある	67.5%		78%以上	①A
	栄養成分表示店の増加	95店	208店	300店以上	①G-6(平成11年) ②G-6(平成18年)
	健康診断の事後指導の実施	51市町村 (58市町村)	*18市町村 (18市町村)	18市町村 (18市町村)	①D(平成11年) ②D-2(平成17年度)
	糖尿病の個別健康教育の実施	27市町村 (58市町村)	13市町村 (18市町村)	18市町村 (18市町村)	①D(平成12年) ②D-2(平成17年度)
	健康相談の実施				
	実施市町村数	42市町村 (58市町村)	*18市町村 (18市町村)	18市町村 (18市町村)	①D(平成11年) ②D-2(平成17年度)
	糖尿病教室の実施				
実施市町村数	48市町村 (58市町村)	15市町村 (18市町村)	18市町村 (18市町村)	①D(平成11年) ②D-2(平成17年度)	

(注) 市町村合併に伴い、目標となる市町村数を訂正しました。(下段総市町村数)

\*印は、最近の値で既に目標値を達成していますが、今後も推進に努めます。

ベースライン値、最近の値の根拠となる資料は次のとおりです。

- A : 平成12年度 県民生活習慣実態調査
- A-2 : 平成16年度 県民生活習慣実態調査
- B : 平成12年度 県民栄養摂取状況調査
- B-2 : 平成16年度 県民栄養摂取状況調査
- D : 市町村へのアンケート調査(平成11年、12年)
- D-2 : 市町村調査(平成17年度)
- G-6 : その他
- H : 平成18年度 県民健康調査

## 推進の方向

### 1 糖尿病を予防するための生活習慣の改善

- あらゆる機会に多様な伝達手段を使って、県民に糖尿病の正しい知識や生活習慣の改善について情報提供します。
- 糖尿病予防に関する学習の機会や場を提供するとともに、境界型の者などに対し、個別健康教育が実施されるよう支援します。
- 各市町村で、糖尿病予防のための健康づくりの自主グループの育成が図られるよう支援します。

### 2 糖尿病の早期発見・早期治療

- 糖尿病あるいは境界型の者が早期に発見されるよう健診の受診を勧奨します。
- 健診で発見された糖尿病あるいは境界型の者に対し、医療機関を適切に受診するよう勧奨します。

### 3 治療の継続

- 保健所において、在宅糖尿病患者の支援のあり方や糖尿病合併症を予防するための支援体制等について、市町村、大分県医師会等と連携し検討します。
- 市町村や医療機関での糖尿病患者会などの自助グループの育成を推進します。
- 糖尿病診療機関、相談窓口、自助グループ等の情報収集と関係機関への情報還元をします。

### 4 健康を支える環境づくりの整備

- 糖尿病になっても安心して飲食等ができる食環境の整備や、安全に運動ができる歩道や施設の整備等について充実を図ります。
- 保健指導担当者や医療専門職等に、合併症予防のための研修の機会を提供します。

- 保健所ごとに「地域・職域健康づくり連携推進会議」を組織し、特定健診・特定保健指導を円滑に実施するため、地域・職域での連携の充実を図ります。

#### 〈県の取組〉

- ・正しい知識の普及啓発
- ・特定健診・特定保健指導の推進

#### 〈関係機関の取組〉

- ・大分県医師会  
糖尿病関連研修会・講習会  
ワンポイントクリニック  
歩こうデーの開催
- ・大分県歯科医師会  
市民対象歯科講話（糖尿病関連）
- ・大分県薬剤師会  
薬局店頭における普及啓発
- ・健康保険組合連合会大分連合会  
特定健診・特定保健指導の推進
- ・日本健康運動指導士会大分県支部  
糖尿病ウォークラリー  
メタボ教室